

I. ローターアクトとは

■ローターアクト計画

1960年代の初頭、世界各地のロータリークラブが社会奉仕プロジェクトとして大学レベルの青少年グループの提唱を開始しました。1967～68年度RI会長ルーサー・H・ホッジス氏とRI理事会は、そうしたクラブの活動に国際性があると考えました。その結果、ローターアクトは、1968年にロータリークラブの公式プログラムとして承認されました。最初に認証されたクラブは、アメリカ合衆国ノースカロライナ州ノースシャーロット・ローターアクトクラブでした。その後、ローターアクトプログラムは、強力な国際組織に発展し、171の国と地理的地域に80,703クラブと200,169名(2011年6月30日現在)の会員を擁するまでになりました。青年男女(年齢18歳から30歳)がその地域の物的、社会的なニーズのために奉仕し、友情を広げ、専門職務に触れる機会を増やし、その世界理解を深めることを目的として、ローターアクトクラブが結成されたのです。

(日本国内では、2019年7月現在で297クラブ、2700地区では14クラブ、152名となっている。)

■ローターアクトとは

こうしたロータリー精神をもとにつくられたローターアクトとは、一体どんなものなのでしょう。ローターアクトでは、活動の主眼を修練、修養にしています。それは国際ロータリーの声明書にも明記しているとおり、奉仕活動そのものに目的があるのではなく、奉仕を通じてアクト会員個人個人の指導力の開発と市民精神の育成を狙っているからです。

ロータリーに比べ会員数も少なく、在籍年限も短いアクターにとっては、自ら社会の幹部候補生として自覚を持って修練を積んで欲しいものです。

では、どのようにしてクラブの機能を発展させ、目的達成に向かうべきでしょうか。

(1) 会員相互の友愛を深め、各自の人間開発に役立てよう。

まず、ローターアクト会員は、安心して付き合える仲間であり、活動を通じて容易に友達が得られるという利点があります。会員は少なくとも2週間に1回は顔を合わせる機会があること、同業者や競争者などが少なく、利害関係がないこと、などによって親睦関係が生まれやすく、友達を得やすい環境にあります。こうして心を許しあえる友達を得ることで人間が磨かれていきます。自分とは性格の異なった人、経験の異なった人、異なった環境に育った人など、ローターアクトには多種多様な会員がいます。そうした人たちと交わることで、自分の欠点、長所が発見され、他人の見習うべき言動に遭遇します。その中でお互い白己を磨き合い、自己開発をしていくのがローターアクトの親睦なのです。

(ローターアクトの標語“奉仕を通じての親睦” “Fellowship Through Service”)

では、親睦がどうして奉仕になるのでしょうか。

中国の聖人は、人の性は善なり（性善説）、といい、また他の聖人は悪（性悪説）と決め付けました。しかし、これはコインの両面のようなもので、激しい生存競争の場では「悪」が生じやすく、平和な心境に際しては「善」が湧いてきます。他人との親睦によって他人を顧みるゆとり、相手の身になって、進んで他人のために尽くす心が湧き起こり、奉仕が生まれます。これがロータリーにおける親睦と奉仕の関係です。ローターアクトも親睦が第一で、これが充分に行われれば自然と奉仕の志が生まれてくるものです。単に金銭を施すような形だけの奉仕ではなく、心の底から湧き上がった善意が具体化された奉仕こそ、真のローターアクト奉仕なのです。また、クラブそのものは会員を訓練する道場であって主体性は会員個人にあります。会員個人にやる気がなければクラブは閉店休業の状態になります。まして親睦は個人個人の接触から生まれるものですから、欠席しては何の効果も上がりません。この意味で例会出席は会員の最低の義務であり、クラブ奉仕の最初にして、しかも最大のものなのです。

（2）職業人としての誇りを持ち、その責務の達成に努力しよう

奉仕とは相手の身になって考え、かつ行動することですから、これを職業生活にあてはめれば、買う身になって売る、使う身になって作る、受ける身になってサービスする、ということになります。これを実行するにはそれだけの信念、職業に対する使命感がなくては出来ません。アクト会員は概ね職業を持っています。自分の職業の社会的意味を考え、そしてそこに誇りを見出して下さい。あなたの給料が会社から支払われるのではなく、お客様からもらっているのだということが分かれば、あなたは、ロータリークラブで意味するところの職業奉仕への道を進んでいるのです。

（3）地成社会を知り、奉仕を実践しよう。

ロータリーのマークは、創主当時は例会場の持ち廻りをするということで、馬車の車輪を型どったものを付けていました。相互扶助の段階に入った時に歯車のものに変え、社会を考えるようになった時、キーホールを加えて現在のものになりました。すなわち、歯車の回転が回転軸を通してその善意のエネルギーを広く社会に伝導する、つまり社会奉仕を意味するものです。ただここで留意したいのは、ロータリーの社会奉仕の原語は ‘Community Service’ であることです。この意味は、自分の住む地域社会に奉仕するということで、広く一般社会に奉仕することを意味するものではありません。ロータリーがその存在する地域に立脚して結成されているのと同様、ローターアクトの奉仕の守備範囲は、ロータリークラブと全く舞台を同じくすることになります。従って両クラブが提携して、そしてカウンターパートとして奉仕活動をする場合が多いはずですが、ロータリーの社会奉仕活動は、ニーズの調査に重点を置き、今日、何が一番大切で、何が見逃されているのか、あるいは軽視されているのか、それらの問題を探して取り組み、と教えています。ローターアクトも同様に奉仕を実践する前に、社会のニーズを探究して欲しいと思います。

ロータリアンの見逃している問題も、ローターアクトの新鮮な眼で見直したら、案外重要な社会的ニーズとして、あるいは欠陥として見出されるのではないのでしょうか。

但し、クラブや団体に奉仕したからといって個人として奉仕をしないで良いことにはなりません。ロータリークラブが老人ホーム慰問を思い立ち、カラーテレビやご馳走を持って行きましたが、予期したほどの反応がありませんでした。ところがローターアクトは、お年寄りの希望を聞いて、自家用車で墓参りにお連れしたところ、大変喜ばれました。若人の新鮮な眼と体当たりの奉仕の実践が実を結んだ良い例といえます。

(4) 国際理解に努め、世界平和に寄与しよう

国際理解というと難しく、縁遠いものと考えられがちですが、意外と身近なところに入り口はあります。それは、国境を越えた人間理解と解釈することです。人間理解とは、相手の身になって考え、相手の立場を尊重することに尽きると思われれます。これはとりもなおさず、ロータリー精神で相手に接するという事です。

今の日本における私たちの生活は、諸外国との友好関係なしでは考えられません。エネルギー、工業原料、食糧などすべて大部分を輸入に頼っています。この立場にある日本人が、一人よがりや優越感に浸っていることは危険なことです。こうした国際社会に生きる我々には、優れた国際感覚が求められます。ローターアクトの国際奉仕の基本はここにあります。国際理解には直接、外国の方と接するのが一番です。提唱ロータリークラブの米山奨学生との交流や近隣の大学の留学生と交流を図ってみてはどうでしょうか。また近年ではインターネットの急速な発展により、海外のローターアクトクラブのホームページから活動内容を知ることでもできるし、電子メールにより気軽に海外のアクターと交流することもできます。要は一人一人のローターアクターが心の中に、知的、道徳的な世界的連帯感を養成することでしょう。2700 地区では、台湾と韓国の地区のローターアクトとの交流を続けていますので、積極的に参加するのもよいでしょう。

Ⅱ. ロータリーがローターアクトに期待するもの

■提唱ロータリークラブの役割

ローターアクトクラブの結成終了後、その提唱ロータリークラブはローターアクトクラブを指導し助言を与える責任があります。ローターアクトクラブ会員の大半は、ロータリークラブの他の対青少年活動（ボーイスカウト、インターアクト等）の参加者より年長者ですから、彼らの態度、動作、思考は大人のそれにより近いものでしょう。従って、指導の方法なども自らボーイスカウト、インターアクト等とは異なるものがある筈です。ローターアクトの年齢層の青年男女は、自分で判断する能力を完全にもっていますので、その助言にあたっては、如才なく控え目に、そして活動方針を決める仕事を手伝うという心構えで行う必要があります。ローターアクトクラブの成長如何は全て提唱ロータリークラブの熱意の如

何にかかっていると云っても過言ではありません。従ってローターアクト委員会任せでなく、クラブ全体即ちクラブ会長以下全員が責任を負っている気持ちで、ローターアクトの例会、理事会、その他の行事に参加してアクターに接し、適切な指導と助言を与えてもらいたいものです。アクター達はロータリアンの参加を大いに歓迎しておりますし、勉強になると云っております。また、ロータリアンとローターアクトクラブ会員とは、機会ある毎に共通のプログラムまたは、計画で協力し合って活動すべきです。最後に提唱ロータリークラブとローターアクトクラブは親子というよ、パートナーあるいはカウンターパートであり、密接な関係にあると互いに自覚すべきであります。標準ローターアクトクラブ定款は、第3条、第5条、第13条で提唱ロータリークラブの役割を定めています。

■ロータリーがローターアクト活動で期待しているものは？

(ローターアクト活動を通じて)

- ①次代の職業並びに地域社会の指導者となる青年男女の指導、啓発に寄与すること。
- ②青年男女たちに建設的な感化を与えること。
- ③対青年男女活動計画を推し進めること。
- ④一生の中でこの重要な時期にある青年男女に「他人への奉仕」という考えを伝えること。
- ⑤地域社会にこのような有力かつ永久的な奉仕に熱心な青年男女のグループを育てること。

■ローターアクト地区委員会

国際ロータリーは、地区ガバナーが行う次の仕事を援助させるためにローターアクト地区委員会を設置するよう勧告しています。その主旨に基づいて2700地区でもローターアクト地区委員会が設けられております。具体的な目的は、

- ①ローターアクトのプログラムに関する知識を一般に広めること。
- ②新ローターアクトクラブ結成を推進すること。
- ③地区内ローターアクトプログラムの管理にあたること。

この委員会は、如何なる意味においても決して個々のロータリークラブに対して命令したり、その自治権を犯したりしてはならないが、必要に応じては援助と忠告を与えることができます。また、地区ガバナーとともに、地区の方針を立てたり、地区単位の会合を開いたり、地区ローターアクト役員と連携して、提唱ロータリークラブのローターアクト委員会のための講習会を行います。これらを通じて地区内のロータリークラブとローターアクトクラブとの連絡役もするのです。

■ロータリークラブがローターアクトクラブを提唱することによる地域社会へのロータリークラブの反響

- ①青少年・少女の健全育成に役立つ。
- ②ローターアクト実践哲学を通じての人間性の形成。

③年齢的ギャップを埋める。

④ロータリーの真価が認められ、ロータリーの広報活動としての役割。

⑤スポンサークラブの共同奉仕等により、活力を与える。

ロータリークラブとローターアクトクラブとの相乗的作用により、一層より良き社会を作り出すものと考えられます。従って、ロータリークラブの拡大としての価値認識を持つものなのです。

■ローターアクターがロータリアンを先生と呼称していること。

ロータリアンは、その人生航路において、幾度かの挫折を味わい、失敗に苦しみながら今日を成しています。このような経験から、人生における成功はどんなに難しいものかと充分知り尽くしているはずです。故に、困っている人々に対しての援助を惜みず、同じ苦労をする人々の心も分かる酸いも甘いも噛み分けた苦労人であるといえます。事業あるいは職業においても成功した人物であり、ローターアクターより先に生まれた人生の大先輩です。即ち、先に生まれた先輩であるというのが、先生と呼称する所以です。先生と呼ばれるロータリアンは、自分自身がローターアクターの模範であり、時にはカウンターパートナーであることを認識し、彼らは自分（ロータリアン）の姿を見て、無限の希望を見つめていることを慮らねばならないのです。